

施政方針



毛呂山町長 井上 健次

「毛呂山町はいい町になったなあ」と感じていただけるために

東日本大震災から2年という歳月が経過しました。犠牲となられた1万6000人におよぶ方がた、いまだ行方不明になられている方がたに心より哀悼の意を捧げ、全国でいまだ避難生活を余儀なくされている31万人を超える方がたに衷心よりお見舞いを申しあげます。

昨年は、復興元年といわれましたが、被災地の復興施策は決して満足な状態とはいええず、長期化する被災

援ツアー」を実施しましたが、今年度は更に参加者を増やし、多くの子どもたちに被災地の現状を自分の目で見てもらい、将来にわたっての「支えあいの心」を育ててもらいたいと考えています。

さて、時代の転換期となっている国政ですが、昨年12月の衆議院議員総選挙により民主党政権から自民党・公明党の連立政権へと再度政権交代が行われました。また政策として、アベノミクスと称される「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」が「三本の矢」としてスタートしましたが、何よりも景気の回復を第一に、雇用の確保、社会保障制度の安定、財政再建と一日も早く国民が安心して生活できる社会の構築に努めてもらいたいと考えています。

当町における状況ですが、安倍首相が就任後早々に打ち出した15か月予算の考え方は、多くの地方自治体で手を上げることになり、本町でも平成24年度補正予算として取り組み、先の3月定例議会において議会の承認をいただくことができたことは町政進展のための大きな一歩となりました。今後、25年度に年度をまわりたいでこれら予算の執行に万全を期し、最大限の効果を発揮できるように体制を強化していきます。

一方、平成25年度当初予算にあつ

ては、歳入において長引く景気の低迷を背景に町税の伸びには厳しい状況が続いています。また、歳入においては、長年にわたり町が賃貸借していた大類グラウンドの用地買い上げの実施を筆頭に、学校施設など既存施設の老朽化対策により財政需要は拡大する傾向にあります。

こうした状況をふまえ平成25年度予算編成にあたっては、限られた財源のなかで創意と工夫をこらし、最小限の経費で最大限の事業効果が発揮できるよう効率的な配分に努めました。

平成24年度後半の事業報告

平成25年度の取組を説明する前に、年度末に大きな事業を行いましたので報告をさせていただきます。

3月23日、町で実施するB型肝炎ワクチンなど4種類におよぶワクチンに対する町の助成が新聞で報道されました。これは、埼玉県内でも初めての施策であり、本町の予防医療としての取組である「医療と福祉を更に充実させる」が大きく前進いたしました。また、3月27日には、町立ゆずの里保育園が落成式を迎えることができました。このことで、長年課題となっていた本町の官民合わせでの「子育て環境の整備」として、一つの区切りを迎えることができました。そして3月28日、県道川越坂

戸毛呂山線川角農協前交差点改良工事の完了に伴う完成披露会が行われました。これは「生活道路を最優先で整備する」とした公約の一つでもあり、本町のみならず近隣市町においても長年の悲願であり、渋滞の解消によってもたらされる効果は絶大なものと確信しています。

平成25年度の主な取組

◎防災施策と高齢者福祉

就任以来、大災害を教訓に進めてきた「企業との災害時における協定」は、平成24年度に4件締結したことで、全体で29件となりました。引き続き協定を結んでいきます。また、抜本的な改訂を急いでいた「毛呂山町地域防災計画」は作業が終わりました。今後も全行政区での自主防災組織設立をめざすとともに地域の連携や一人暮らしの高齢者の安全を守る「地域みまもり隊」の結成を働きかけることで「安心・安全な町づくり」を進めていきます。

◎子育て環境・教育環境の整備

子ども医療費の窓口払い廃止や新保育園建設により「子育て環境の整備」が進みましたが、今年度は小学校のトイレ改修工事を更に進め、町内各小学校の低学年までのトイレ改修工事を完了をめざします。また、

通学路の安全対策として路側帯およびガードレールの設置をはじめ、昨年度設計した西戸地内松貫橋の側道橋取り付け工事を実施します。

◎生活環境および道路整備

武州長瀬駅北口周辺地区整備事業については、自由通路と橋上駅舎の工事について10月上旬から駅舎の供用が開始されます。併せて、野久保線整備事業については、一部工事を実施します。また、日化団地北側の踏み切り拡幅については遅れていた設計業務が完了します。

◎観光事業、その他

平成24年度、本町は埼玉県の「川のみまもり再生事業」に申請していましたが、この年度より採択をいただき、平成25年度から3年間にわたる越生町と共に越辺川の再生事業がスタートします。また、「里山平地林再生事業」でも、今年度県より採択をいただいております。総合公園体育館南側の遊歩道に沿った町有林の整備が実施されることになりました。今後、総合公園を中心に、行田市から譲り受けた「古代蓮」を含めた花蓮の観光施策を推進し、さらに鎌北湖や宿谷の滝周辺のハイキング道の整備として、計画的に道標など整備を実施してまいります。

「思いやりあふれるやま」と町 「もろやま」をめざして

2月14日の新聞記事から始まった「川角中学校の2年生が利用した」三ひとつない新幹線は、いまだに多くの方がたに取り上げられ、全国の自治体でも毛呂山町の中学校を真似て「小さな親切運動」や「思いやりの運動」として、日本人が忘れかけていた道徳心を揺れ動かしました。

最初のきっかけは、確かに毛呂山町の中学生の行いですが、その行いを2枚の便箋に託してお褒めいただいた清掃担当の女性の温かい心遣いなければ、この話が世に出ることはなく、そこに多くのメディアが加わり日本を動かすまでになりました。

私は、今回のすばらしい人のかかわりと誇り高き毛呂山町の子どもたちが教えられたような気がしています。そして、毛呂山町を日本「思いやりあふれるやさしい町」にすることだと…。これを機に「毛呂山町は、いい町になったなあ」と町民皆さんが感じていただけるために、新たな気持ちで職員と一丸となって全力で町政運営を行ってまいります。

結びに、今後におかれましても、町民皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。平成25年度のスタートにあたりましてのごあいさつとさせていただきます。

